

第7回肝臓病教室

このたび、第7回肝臓病教室が平成23年12月2日に開催されました。今回も23名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「B型肝炎」です。

まず、角田医師より「ここまで進んだB型慢性肝炎の診療」について講演がなされました。

現在、B型肝炎の治療方法には、免疫賦活と抗ウイルス薬（核酸アナログ）があります。核酸アナログ療法には、ラミブジン（ゼフィックス）、アデホビル（ヘプセラ）、エンテカビル（バラクルード）の飲み薬があります。エンテカビルはラミブジンやアデホビルと比べ耐性ウイルスが生じにくいいため、現在のB型肝炎の治療方法としてよく用いられています。また核酸アナログ療法の一つとして、市立奈良病院ではテノホビルを用いた治療薬の治験を開始することになっております。



続いて、松本検査技師より「B型肝炎に関する血液検査」の講演がなされました。

まず、B型肝炎マーカーとその意味について説明されました。一般にHBe抗原が陽性ならウイルス量（HBVDNA量）が多くHBe抗体が陽性ならウイルスが少ないですが、時にHBe抗体が陽性でもウイルス量が多いことがあるため、HBVDNA量の測定が必須であることを説明されました。また、血液検査における腫瘍マーカーについて説明されました。腫瘍マーカーとは、肝臓がんの指標になるもので、これらの項目（AFP、PIVKA-II）を定期的に検査することは、がんの早期発見につながる大切なものです。



続いて、中川薬剤師より「B型肝炎の薬物療法」について講演がなされました。

核酸アナログ療法とインターフェロンについて、その作用と副作用について説明されました。核酸アナログの利点として経口投与であり、副作用がほとんどないことがあります。短所として投与中止後の再燃が高頻度のため、簡単に投与を中止出来ないことなどを挙げられました。また2010年4月から肝炎医療費助成制度が適用となり、経済的負担も軽減され、治療を受けやすい環境が整備されております。



さらに、原看護師から「日常生活の注意点—ワクチン接種について—」の講演がなされました。

最初に、仕事で無理をすると症状が悪化するため、規則正しい生活リズムを保つことやアルコールの摂取は、少量でも肝機能が上昇するため酒量を抑えることなど基本的な日常の注意点を述べられました。また、感染経路について母子感染や性交渉、注射器の共有への注意が必要であることを述べられました。さらに、成人のワクチン接種を取り上げ、妻がHBsAg（抗原）陽性の場合、夫がHBsAg（抗原）陰性HBsAb（抗体）陰性であれば、夫にワクチン接種することが望ましいと説明されました。



最後に、野坂栄養士から「B型慢性肝炎の食事療法」について講演がなされました。

慢性肝炎の場合、特別な食事をする必要はありません。偏食せず、塩分は控えめに、栄養的にバランスのとれた食事を心がけることが大切であると説明されました。また、奈良県の旬の食材をスライドでわかりやすく示し、奈良県に昔から伝わる郷土料理や県産の旬の食材を用いた料理などを紹介されました。



消化器肝臓病センターでは、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。